

平成 15 年 7 月 29 日
第 1 回東京都食品安全情報評価委員会
資料「食品安全情報レポート」より

水銀を含有する魚介類等の摂取に関する注意事項

現 状

厚生労働省は本年 6 月 3 日、魚介類等に含まれる水銀に関する安全確保について薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会乳肉水産食品・毒性合同部会で審議を行い、妊婦またはその可能性のある人に対する注意事項としてバンドウイルカ、マッコウクジラ、メカジキ、キンメダイ等について、1 回の摂食量、摂食頻度等の目安を示した。

その内容は以下のとおり。

バンドウイルカについては、1 回 60～80g として 2 ヶ月に 1 回以下にすることが望ましい。

ツチクジラ、コビレゴンドウ、マッコウクジラ及びサメ(筋肉)については、1 回 60～80g として週に 1 回以下にすることが望ましい。

メカジキ、キンメダイについては、1 回 60～80g として週に 2 回以下にすることが望ましい。

また、注目されていたマグロについては、後日発表された Q & A の中で、「マグロの水銀濃度と国内でのマグロ摂食状況から試算されたマグロ由来の水銀摂取量から、健康影響は想定しがたいことから注意事項の対象としなかった。」としている。

なお、国は、6 月 3 日付で、都道府県衛生主管部長あてに、「水銀を含有する魚介類等の摂取に関する注意事項について」関係者への周知を行うよう通知した。

課 題

本件の周知と正しい理解に向けたリスクコミュニケーションの方法についての検討が必要である。

評価委員会議事録のまとめ

(事務局)

- ・厚生労働省は、平成 15 年 6 月 3 日付で各都道府県の関係主管部長あてに、「水銀を含有する魚介類等の摂取に関する注意事項について」関係者への周知を行ってほしいという通知をだしている。
- ・都では、このことについて、その正しい理解に向けたリスクコミュニケーションの方法について検討が必要ではないかと考えている。

(村上委員)

- ・非常に難しい課題だからこそ、討議したほうがいい。
- ・難しい理由は、この水銀が天然由来のものが非常に多い。しかも簡単には除けない。それから、いろいろな魚に含まれているため、どれか 1 つだけ食べなければいいということではない。
- ・そういう非常に難しい安全性にかかわる問題を持っているので、リスクコミュニケーションを考える上での一つの課題、モデルケースになるのではないか。
- ・対応の仕方で、国はパニックが起こらないように努めているが、Q & A が出るのが少し遅すぎた。
- ・消費者が疑問に思うことを丁寧に解きほぐした情報をなるべく早く出していき、情報内容にしてももう一歩踏み込んで、「なぜそうなのか」、「どういう背景があって、どんな研究データがあってこういうことが言えるのか」、「妊婦だけなのはなぜか」、「授乳中の母親は大丈夫というのはなぜか」、少し専門的になりすぎると言われるかもしれない情報でも、周りにそれがわかる人がいれば、少し解説してもらってもいい。消費者にとっては細かくきちんとした情報が出ているということを確認されることは非常に大切ではないか、そのことが行く行くは安心につながるのではないか。

(林会長)

- ・リスクコミュニケーションを考えるいい題材

(関澤委員)

- ・厚生労働省がこの発表を出した後に、F A O と W H O 合同の専門委員会である J E C F A という国際機関でも評価をして、さらに厳しい値が出てきてい

る。ところが、その会議に出席された方からのお話を伺っても、少し疑問と思われる評価の部分があり、不確実な内容がいかにも非常に確定的に伝えられてしまうおそれもあるような評価だった。そのような不確実な情報に関することをどう考えるか。

- ・天然に、既に私たちが祖先伝来食べていた魚にかなり含まれているということ、どう考えていったらいいのか。リスクコミュニケーションでは、こういう魚からの栄養分や、それから昔から食べていたということも考えに入れて、含まれていたと思われる有害物質についてどう考えていったらいいのか問題になると思う。
- ・特に、妊娠中の方に警告が出されたので、関心が非常に高かったと思うが、そういう方からどういう疑問が出ているのかというのは、東京都としてはもう少し身近に、厚生労働省よりも都民の声を聞くこともできるかなという期待はある。皆さんが不安に思っている内容をできれば詳しく聞いて、それ的確に答えていけるようなことがトライされればいいと思っている。

(林会長)

- ・メチル水銀は健康影響という問題もあるが、リスクコミュニケーションはいかにあるべきかということが主題になると思う。非常に大きな問題があるので専門委員会に付託するのがいい。
- ・リスクアセスメントは、水銀についてはかなり行っている。リスクアセスメントの結果をいかに伝えるかということが一番重要な問題だと思う。そういう意味で、この都の評価委員会では、アセスメントとコミュニケーションの両方を踏まえた議論でなければ意味がないと思う。

(碧海副会長)

- ・そういう意味で、この問題は、むしろこの評価委員会で直接議論をしてもいいテーマではないかと思う。

(細川委員)

- ・もちろん都民の健康安全が第一ですが、このとき、キンメダイが魚市場初め、相当流通関係の値段が下がったということで、大きな影響が一時出た。いわゆる風評被害のような形で、営業上、大きな影響が出ないという視点も大変大事だと思う。築地初め大きな魚市場も東京にはたくさんあるので、そういう人たちへの対応ということも十分配慮しながらやっていくというのも、リスクコミュニケーションの重要な役割じゃないかと思う。